



大町市の企業紹介 14

—地域を支える地方企業—

毎月1日号の広報おまちで、市内の企業を紹介しています。内容は各会社から提出いただいた原稿を基に掲載しています。掲載を希望する企業は、商工労政課（☎市内線541）までご連絡ください。次回の「大町市の企業紹介⑮」は、2月1日号に掲載します

株式会社 黒雲製作所

いつの日か 「楽器のまち大町」に

当社は、戦前よりろくろ細工の木工所をしていましたが、昭和40年にギターの製造に生産業務を転換してからは、他の楽器メーカーからの委託生産を受けて、エレキギターや大正琴などの生産をおこなっています。

近年は、首都圏にあるいくつかの楽器店から、カスタムメイドといわれるような、個人客向けの特注仕様でのギターの注文も受けて製造しております。今年からはインターネットのホームページなどから、一般の個人のお客さまからの注文にも

対応しての、エレキギターの製作もおこなっています。

楽器の生産地といえば、浜松などが思い浮かぶかも知れませんが、常盤須沼にあるフジゲンさんの大町工場が生産を拡大して、現在は、日本で最大規模でのエレキギターの製造をされていますので、いま大町市は、日本でも屈指の楽器生産地となってきました。

いつの日か、この大町市が「楽器のまち大町」と呼ばれるようにと、当社も一層の努力をしてみたいと思います。



●所在地等
大町市大町5290-1
TEL 22・1331
会社ホームページ
<http://www.kurkumo.co.jp/>
●代表者
代表取締役 黒雲清人
●事業内容
楽器製造

信州松崎和紙工業 有限会社

伝統を再発見できる会社を目指して

信州大町における製紙技術の伝来は、今から千年以上も昔に仁科神明宮の祭礼用として、この地に伝来されたのが始まりとされます。その後、紙が一般化し需要が多くなるにつれ、農家の副業として許可を受けた者だけに、その製造が許され、今まで継承し続けることができました。

その背景には、製紙に不可欠な豊富で清涼な水と、丈夫な良質の原材料に恵まれた地であったからだとされています。

やがて、個々の生産者が集まり、より効率的な生産を行うために、「北信濃製紙協同組合」を発足して紙の増産に努めました。しかし、時代の変遷とともに、洋紙の普及や戦時中の統制で生産者が激減し、当社は「信州松崎和紙」として独立。手すき和紙の技術を、今日まで受け

継いでまいりました。

以前の障子紙や帳簿用紙などの用途から、工芸和紙への生産に移行し、現在では、その紙を使用した工芸加工品の製造をし

ています。全国的にも特殊和紙の生産加工をしている業者は少なく、その紙のデザインには、大町の自然の木や葉や花といった素材を取り入れ、独自の技法により紙の中にすき込む製法を特徴として、和紙の持つ手作りの強さと自然素材の温かさを表現する紙づくりを続けてまいります。



●所在地等
大町市社6562
TEL 22・0579
会社ホームページ
<http://web-nagano.jp/shinshuwashi/>
●代表者
代表取締役 腰原泰雄
●事業内容
和紙製造業